

<講演会資料>

14 : 40~15 : 40 基調講演（特別講演）

『人生の転機っていつ訪れるかわからない。』

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 歯髄生物学分野 非常勤講師
アジアパラ 2018 車いすフェンシング 元日本代表
千坂（宮良） 香菜 先生

2014 年、本学歯学部附属病院勤務時、脊髄疾患により両下肢機能全廃となり、車いす生活となる。歯科系医療機器メーカーへ転職後に車いすフェンシングに出会い、2016 年から競技を始める。産休をはさんだ後、2018 年に国際大会デビューを果たす。世界の壁を痛感しつつ、育児・家事・仕事との両立を模索し続けている。

今回は、車いす生活の実際とパラスポーツの国際大会の様子を紹介したい。

15 : 50~16 : 40 同窓生報告

『私の歩んだ道』

東京医科歯科大学 医学部附属衛生検査技師学校 2 回生
元文京学院大学保健医療技術学部 准教授
鈴木 敏恵 氏

思えば学校を卒業して 53 年経ちました。検査技師として病院で働いたのは足掛け 8 年です。その後はずっと検査技師の養成に携わってまいりました。臨床検査の進歩・発展はめざましく、検査項目から検査方法まで大きく変革してきました。検査は用手法が主であった時代から自動分析機器に取って代わり、さらに人工知能の時代へと激変しました。私はこの検査の歴史の中を過ごしてきた感があります。今回はこの間の所感をお話したいと思います

『シミュレーションが支える技術開発

～三角関係が可視化する複雑な世界～』

東京医科歯科大学 医学部保健衛生学科検査技術学専攻 5 回生
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 生体機能システム学分野 助教
本間 達 氏

精確な数理シミュレーションを実現するために、数理モデルの正四面体配置が必要である。一般的な直交座標と異なる連続構造を、効率的に計算するために提案したのが正四面体格子座標系という新しい概念である。この座標系は力学モデルや熱伝導モデルで有効性が証明されてきた。熱伝導モデルで構成した人体頭部の温度分布可視化システムで検証した新しい温度管理技術を用いて、選択式脳低温療法という未だ臨床例のない手法を実現するために開発中の温度管理装置を紹介する。